

皆で考える勝山

皿澤 康孝 氏

皆さんに何か参考になることはないか考え、自分の高校時代だけでなく、社員や、お得意のお医者さん、看護師さんなど、40名くらいの色々な方に「高校時代はどうだったか」とお聞きした。ほとんどの方が異口同音で「人生の中で一番思い出深い貴重な3年間だった」と話をしていた。

人間の一生というのは、生まれてからを1つのロープや木に例えると、どこを切っても「今」の連続である。私がこの教室に入ってきた「時」はもう二度とこない。今から話すことは試験に出ないため、役に立たないと思った方は寝てもいいと思う。だけど、常に「今」の連続であるため、「今」寝る方は将来寝るのと一緒にであると思っている。社員にもそのように話をしている。

高校時代についてお聞きしたとき、「もう1回高校に戻れるならもっと頑張れば良かった」と話す人もいた。私は「それは違う」と話をした。「あなたは5年経ってもまた同じことをいうでしょう」と。その方は30代であったが「今」を一生懸命生きていなければ中学に戻っても高校に戻っても一緒だと思う。今の連続を頑張りたい。

パターンとして「あのときもっと頑張っておけばよかった」という人と、「あの時に頑張ら癖をつけたから今日があった」と2パターンある。やはり後者のほうが良い。

私の体験上や見聞上、個人であっても団体であっても何かを成し遂げようとする人、そしてその体験、経験を持っている人は、長い人生を生きていく中で挫折や苦しむこともあると思うが、ゼロから成し遂げたことを思い出せば、それを強く乗り越えることができると思う。今、高校生時代でしかできないことをやり、次に続けていけることを考えて頑張る癖をつけて欲しい。

人間は努力する生き物だから、みんなが頑張っている。例えば100メートルをみんなですら走ろうとなったとき、100メートル走ってそこで終わりではなく、もう10メートル頑張ってみようとする。その「もう少し」「もう少し」を重ねていくと結果的に大きな差になる。

人間は本質的に差はないと思うが、例えば「100」の力がある人と「50」の力がある人がいたとして、「100」の力がある人は「自分は少く手は抜いてもこいつには負けない」と最初は思う。「50」の人は、いきなり「100」という目標はもてないが少しでも近づこうと頑張り「55」になる。「100」の人は「手を抜いてもこいつには勝てる」と思いつの間にか「90」になっている。それを繰り返すことによって「50」の人が逆転することができる。

自分は71年生きているがチャンスは平等にあると思う。一つ一つを一生懸命やって

いる人は歩いている時に落ちていたチャンスも拾う。自分がいつも考えていれば、それをチャンスとして捉えることができる。あまり努力しない人は運に任せる。自分と同じかそれ以上の人が出た場合「あいつは運が良かったから」と運だけで片付ける人がある。チャンスを上手に拾っていくために「もう少し、もう少し」の努力を常にかんがえてほしい。そうすると、それが大きな実りになると思う。

また、みなさんのことを一番理解している方、心配している方、考えてくれる方、学校の先生や親など、そのひとたちを巻き込んで、自分は何に向いているのか、将来何をすると良いのか、人に相談したりして、もう少し広い視野で考えて欲しい。

自分が成長するために、尊敬出来る人をつくってほしい。尊敬する人には良く思われたいと思い、もっと頑張ろうと努力する。仕事においても尊敬する人がいたら、歩き方や喋り方など全部を真似していったほうが成長が早い。

勝山高校1学年の100名程度で「勝山高校株式会社」というのを作っても良いと思う。勉強以外でなにかを成し遂げてほしい。例えば、1年間かけて勝山市内に咲いている草木・花を全部調べて本にしたり、くだらないことでもみんなで協力してギネスブックに残ることに挑戦したり、全員の初恋ストーリーを文集にしたり、全員で勝山の日本一を発信したり、毎月全員で山に花を植えそれを次の後輩へつないでいき日本一の花山にしたりと、何かを成し遂げてほしい。一つ一つが小さな光でも、集まれば大きな光になり、「その光の一員になりたい」と勝山高校へ志願する人もたくさん出てくると思う。それはさらに大きな光になる。

批判、中傷など後ろ向きな考えでは、明るい展望は生まれない。「自分はせいぜいこんなもの」と枠を決めてしまうのではなく、「もう少し」の頑張りを続けてほしい。

【パワーポイントをもとに説明】

勝山の「何が誇れるか」「何を生かすか」、「その生かし方」について考えた。

勝山にはいくつもの日本一がある。「越前大仏」は日本で一番大きい座像であり、中には小さな大仏がたくさんある。これを勝手にネーミングし「子づくり大仏」とし全面的に発信すると、お子様がない方も来たがる。「五重塔」も日本一の高さを誇っており、さらに「九龍壁」は日本で勝山しかない。世界中では中国に3つあり、中国では国宝級のものである。更に、世界三大恐竜博物館の一つである「恐竜博物館」や、京都のユネスク「西芳寺」よりユネスクが良いとされる「白山平泉寺」、そして「ゆめおーれ勝山」は群馬の富岡製糸場と比べ中身が充実している。自然では「スキージャム勝山」や「雁が原スキー場」、「九頭竜川」とあるため、皆さんにはこれらを何とか生かしてほしい。

有るものを生かす考えとして、恐竜博物館には年間90万人の来館があり、市内で宿泊・飲食をしてもらおうと、平均1万5千円を使うとすると13億5000万円になる。このようなことを考えながら、宝箱のような勝山を生かしてほしい。

有るものに追加してより魅力を創る考えとして、広報かつやまではU・Iターンで勝山へ移住された方のインタビュー記事を掲載しており、そこには「勝山は自然がいっぱい」と書かれているが、日本中のどこであっても自然がいっぱいである。何か努力したわけではなく、すでに有るものである。それに何かを加えることによって観光地となり付加価値が生まれる。例えば、市内に花や木を植え、「ハナミズキ」「つつじ」「百日紅」「あじさい」「ひまわり」など、「〇〇の道」という風にそれぞれの道をつくる。ゴミも落ちておらず比較的きれいな道は変化もない。皆さんは大きなインフルエンサーであり、このようなことをSNSで発信ですることによって有名になる。

勝山には子供の遊ぶ場があまりない。何日間か勝山へ来た場合、1日目は恐竜博物館の発掘体験で半日遊び、もう半日はゆめおーれ勝山の体験で、これも子どもにも喜ばれる。しかし、この次に遊ぶところがない。

無いものを作っていこうと考えてみる。宿泊施設では、ニューホテルが満室だと他に泊まる場所がない。また、先ほど申し上げたように、遊び場では地元の人も観光客も喜ぶところがあまりない。食べ物では、新しい名物やスイーツなどインスタ映えするような食べ物を皆さんにも考えてほしい。キーワードは万人向けの「チーズ・ガーリック・味噌・オリーブオイル」などである。「宇都宮ギョーザ」を聞いたことがあると思うが、あれはご当地知名度No.1である。たかだかギョーザであるが、一生懸命、町をあげてPRするため、あれだけ知名度があがった。勝山にはまず、名物としての食べ物が少ない。B級グルメでもモノマネでも良いから考えてほしい。ちょっとした工夫で大きく変わる。ネーミングについても、例えば「若猪野メロン」は勝山の人にしか分からない。先ほどの「子づくり大仏」と同じように、「ラブメロン」といった名前をつけたり、よくリンゴに「合格」といったシールが貼って「合格リンゴ」とネーミングされているものがあるが、そのようなちょっとした工夫を考えてほしい。

観光資源をより生かすため、英語や中国語、韓国語などの言語を話せるガイドを育て、雇用し、旅行会社（JTB等）に売り込めば外国人観光客が増加する。

大人も子供も遊べる場所として、廃校でもどこでもいいので活用し、カラオケや卓球台、壁打ちテニス、麻雀、囲碁、ゲートボール場、3～5レーンくらいのボーリング場、簡単なフードコート等をつくると近隣の人も遊びに来る。自分のマンション近くに「ラウンドワン」があり、平日でも何千人規模の人がくる。こういったものをつくると、子供だけでなく大人も年配の方も遊べる。

勝山の良いところをより強くし、弱いところは改善していく。ぜひ、みなさんがより良い勝山、変化に強く全世代に魅力ある勝山を創出していただきたい。

最後になるが、振り返れば「輝かしい高校生活」「無限に夢が広がる高校生活」「勉強

と遊びと運動と恋愛の高校生活」「恩師と友人に囲まれた高校生活」「二度と戻らない高校生活」「将来に向け不安いっぱいの高校生活」「振り返ると懐かしく甘酸っぱい感情に浸れる高校生活」、このような何物にも代えがたい高校生活を満喫してほしい。